



コナギ・アメリカコナギ・ミズアオイの 見分け方とピラクロニルの高い除草効果

～ピラクロニルはバッチリ、ビクトリーZ、アッパレZ、サラブレッド KAI 等に含まれる成分です～

1. コナギ、アメリカコナギ、ミズアオイについて

3種は、いずれもミズアオイ科の1年生広葉雑草で水田、沼、湿地などに生育している。

コナギ（第1,4図）：全国どこでも一般によく見られ、ノビエ、ホタルイ等と並ぶ水田の強害雑草である。

アメリカコナギ（第2,5図）：アメリカ（カリフォルニア州等）の水田地帯での主要雑草である。国内では、1970年代後半に岡山県の水田で初めて確認され、岡山県など西日本で見られる。

ミズアオイ（第3,6図）：コナギよりも大型であるが、発生量はコナギよりは少ない。環境省が指定している絶滅危惧種の一つで、県によってはすでに絶滅種としている県もある。水田での発生量や問題性は地域によって異なっている。特に北海道や一部の東北地方では、広範囲に発生する水田の主要雑草である。また、韓国などでも見られている。

なお、国内においてミズアオイとコナギではSU（スルホニルウレア）抵抗性が確認されているが、アメリカコナギでは抵抗性は確認されていない（海外では確認されている）。



第1図 コナギ
（富山県入善町、2016年9月上旬）



第2図 アメリカコナギ
（岡山市、2014年7月上旬）



第3図 ミズアオイ
（北海道長沼町、2016年7月下旬）

2. コナギ、アメリカコナギ、ミズアオイの見分け方

3種は形態的に類似し判別は難しいが、各々の花の着き方や形は下記のように異なっているので容易に判別が出来る。

コナギ：葉柄の基部に**数個の青紫色の花**が集まって短い房状の穂をつくる。花は、葉よりも低位置にある。

アメリカコナギ：葉腋から花茎を出し、鞘状の苞葉の上に直径2cm程度の青色から白色の**花を1個**着ける。

ミズアオイ：茎の上部に房状の穂をつくり**多数の青紫色の花**を咲かせる。



第4図 コナギの花
（富山県入善町、2016年9月上旬）



第5図 アメリカコナギの花
（岡山市、2015年8月中旬）



第6図 ミズアオイの花
（北海道長沼町、2016年9月中旬）

3. ピラクロニルのコナギ、アメリカコナギ、ミズアオイに対する高い除草効果

ピラクロニルは、これらの3種に対して高い除草効果を持つことが、多くの試験で確認されています。社内試験の結果を以下に紹介します。

◆コナギ (左：無処理区、右：ピラクロニル区)

試験概要 (2013年実施) 試験場所:協友アグリ(株)研究所温室、ポットの大きさ:1/10,000a ワグネルポット、供試雑草:コナギ、コナギの育成:代掻き後に播種、薬剤散布時のコナギ葉齢:1葉期、水管理:無漏水・湛水深3~5cm、試験薬剤名:ピラクロニル1kg粒剤(ピラクロニル1.8%)、薬量:1kg/10a、写真撮影日:薬剤散布後40日。

試験結果: ピラクロニルではコナギの発生は見られず、高い除草効果を示した。

◆アメリカコナギ (左：無処理区、右：ピラクロニル区)

試験概要 (2015年実施) 試験圃場場所:岡山市、試験区:4.5m² (2.5m×1.8m)、代掻き日:6月10日、田植え日:6月12日、薬剤散布日:6月12日(雑草発生前)、試験薬剤名:ピラクロニル1kg粒剤(ピラクロニル1.8%)、薬量:1kg/10a、無処理区的主要雑草:アメリカコナギ、ノビエ、ウキアゼナ、ホタルイ、写真撮影日:7月15日。

試験結果: ピラクロニルでは雑草の発生は無く、アメリカコナギ等に対して高い除草効果を示した。

◆ミズアオイ (左：無処理区、右：ピラクロニル区)

試験概要 (2016年実施) 試験圃場場所:北海道長沼町、試験区:1m² (1m×1m)、反復数:2、代掻き日:5月19日、田植え日:5月23日、試験薬剤名:ピラクロニル1kg粒剤(ピラクロニル1.8%)、薬量:1kg/10a、薬剤散布日:5月26日(ミズアオイ発生始)、写真撮影日:7月22日(散布後57日)、無処理区的主要雑草:ミズアオイ、ノビエ、ホタルイ等

試験結果: ピラクロニルでは雑草の発生が無く、ミズアオイ等に対し高い除草効果を示した。

同雑草が問題となる水田では、ピラクロニル含有の水稲用除草剤の活用が、適切な水田管理の一助になります。ご指導、普及について宜しくお願い申し上げます。